海外で活躍する建設コンサルタント技術者が、独特の目線で各国を紹介するコーナーです。

OVERSEAS 海外事情

Democratic Republic of the Congo
― コンゴ民主共和国 ―

母国・コンゴ民主共和国振り返り

ボリコ チャールズ　Charles Boliko
八千代エンジニヤリング株式会社／海外事業部／シニアアソシエイト

出身国・コンゴ民を俯瞰的な視点で

私はコンゴ民主共和国（以下、コンゴ民）出身で、首都キンシャサで誕生しました。しかしコンゴ民に住んでいたわけではなく、名古屋、ローマ、ニューヨーク、ボストン、京都や東京という、さまざまな都市で文化や価値観が異なる人々との交流を体験してきました。

これまで何度もキンシャサを訪問していますが、短期滞在ばかり。幼少期には2年に一度の頻度で、家族とともにキンシャサに帰国していましたが、大人になってキンシャサへ向かったのは約2年前の2022年11月。JICAの無償資金協力事業の準備調査団の一員としてでした。直近は2024年のお盆休みにプライベートで訪問しましたが、私のコンゴ民での累計滞在期間は合計で8カ月ほどです。

一方、家族はコンゴ民の公用語であるフランス語を話す生粋のコンゴ人。私も各地の暮らしではコンゴ系コミュニティに溶け込んできました。そんな経験からか、私や私の家族はさまざまな文化や生活環境に対して柔軟で、現地の文化にも容易に順応でき、異なる文化やその生活様式に深い理解と感謝を抱いています。

ここでは、他都市で育った私が、母国・コンゴ民の、主に首都キンシャサを俯瞰的に見て寄稿するものです。

写真1　筆者（キンシャサにあるショッピングモール「Le Premier Mall」にて）

写真2　キンシャサの街並み

「サッカー熱」が熱い！現地のスポーツ事情

キンシャサは、1700万人以上（2021年時点／JICA資料より）の人口を有し、他のアフリカの主要都市と同様に、若者の人口割合が高く、活気にあふれた都市です。休日は、家族や友人と家で過ごしたり、買い物をしたり、さまざまな場所でスポーツを楽しんだりします。特に人気なのがサッカー。キンシャサの人たちは収容人数8万人のスタッド・デ・マルティール（Stade des Martyrs）で行われるサッカーの試合を非常に熱心に観戦し、試合の日にはスタジアムが満員になります。特にナショナルチームが試合をする際には都市全体が「サッカー熱」に包まれ、羽目を外すことも多々あります。私自身もサッカーのプレイヤーかつ熱心なファンですので、キンシャサ滞在時にはスタッド・デ・マルティールにも足を運んでいます。また、私自身はバスケットボールも好きで、バスケットボールコートがあるリメテ地区でプレイを楽しんだこともあります。

写真3　2007年に撮影したスタッド・デ・マルティールでのスポーツ観戦の様子。手前のストライプのシャツの少年が当時の筆者

写真4　リメテ地区でのバスケの様子

コンゴ料理もぜひ味わって！

コンゴ民で暮らしていなくとも生まれた時から慣れ親しんだコンゴ料理。家庭で食べていた料理は、キンシャサのスーパーオーベン（Super Aubaine）などのレストランでも同じ（ような）味で美味しく味わえます。米、フフとシクワング（chikwangue：キャッサバを原料としたちまき状の食品）はコンゴ料理の主食ですが、これにポンドゥ（pondu：キャッサバの葉の料理）やフンブア（fumbwa：ほうれん草のような葉の料理）、トマトベースのソースで調理された肉や魚を添えることで、非常に充実した食事を楽しむことができます。揚げたプランテンバナナやベニエ（生地を油で揚げた、ドーナツのような食感のお菓子）も代表的なごちそう。さらに、チキンのマヨネーズあえのプーレマヨ（Poulet Mayo）は最近有名になった料理で、キンシャサを訪問したら1回は試していただきたい！　キンシャサでは、他にも西洋料理、アジア料理、トルコ料理などの各国のレストランがあり、さまざまな料理を楽しめます。

家族的な価値観が強いコンゴ民の対人関係

キンシャサの人々は、非常に家族志向。日本のような核家族はまれで、家には最低でも5人以上が住んでいて大家族なのが一般的です。仕事や外出をしていないときは、家族団らんを楽しむ国民性です。

非常に柔軟性を重んじる国民性で、状況の変化に簡単に対応することが特徴です。こうした柔軟な傾向は日常生活にも表れていて、

写真5　スーパーオーベンの料理（米、ポンドゥ、チキンとバナナ）

写真6　プーレマヨ（チキン、マヨネーズとシクワング）

日々の予定は、その日の状況によって立てられることが多く、臨機応変に対応することが普通です。言い換えると、予定の突然の変更やキャンセルもよくあるということ。私がキンシャサで仕事をしていたときや、休暇を過ごしていた際にも頻繁に起き、そのたびに私自身臨機応変な対応が必要でした。ぜひ、皆さんがキンシャサの人々と仕事をする際は、この柔軟性を念頭に置いて準備をしていただきたいと思います。

そして、コンゴ民の人口の約95％がキリスト教徒であることから、キリスト教の価値観や文化が大きく浸透しています。キンシャサの人々は親しみやすく、温かく、他者に親切で、ユーモアにあふれており、また非常に活気に満ちています。他者であっても互いを兄弟姉妹として見ており、年配者は「パパ」や「ママ」と親しみを込めて呼んでいます。知らない男女同士でもこうした称号で呼び合うことが多く、あらゆる場所で家族的な関係が築かれています。

私の感想としては、開発途上国に共通する厳しい生活環境の中で、キンシャサの人々はお互いに助け合っているのだと思います。しかし、今後のキンシャサが国外からの起業家・観光客の増加により発展していく中で、日本や他の先進国のように、この家族志向の文化が変化するのではないかと、少し寂しい思いがあります。

近年、発展が目覚ましい交通サービス

キンシャサにはバスやタクシーの交通ネットワークが存在していますが、車両の多くが老朽化しているため信頼性や安全性に問題があります。さらに、信号機などの道路インフラの整備ができておらず、維持管理も不十分なため、日常的に通勤や物流に影響を与えています。交通渋滞も問題が顕著化していて、スムーズにいくと15～20分ほどの移動が1時間以上かかることもあります。

しかし、キンシャサの州都であるゴンベ地区内の移動は非常にスムーズです。夕方までであれば何時でも安全にタクシーやバスに乗れ、料金も手頃です。幼少期と2024年のお盆休みに滞在したキンシャサを比べると、交通の状況はかなり改善されています。まだまだ課題はありますが、キンシャサは確実に発展をしています。

反対に、進捗の鈍い水道と電力

キンシャサの医療サービスは、日本と同じように公立と私立のクリニックがあります。しかし日本とは違いコンゴ民で健康に過ごすためには、予防接種や薬の服用など事前の対策を講じることが望ましいとされています。

電力や水の供給も不安定なのが現状です。私が宿泊した新築のノボテル（Novotel La Gombe）というキンシャサの4つ星ホテルでも頻繁に停電が発生し、すぐにディーゼル発電機を稼働しなくてはなりませんでした。近年の滞在ではホテルに宿泊していたため問題は少なかったですが、現地の家庭における水や電力の停止は、生活において大きな課題です。一般家庭では、水道も突然停止しますし、いつ再開するかは予測できません。特に電力も数時間から数日間停止することがあります。現地では水道水の飲用は避け、ペットボトルの水を使用することが推奨されています。公共サービスの改善は幼少期のころの印象と変わらず、あまり進んでいない印象を受けます。

個人的な経験と課題

コンゴ民出身である私は、現地を訪問すると温かい雰囲気に包まれ、強い帰属意識を感じます。キンシャサでの人々とのやり取りは常に楽しいですが、初対面の人には、同じ国民であることに過信せず慎重に行動することを意識しています。

写真7　モンアンバ地区の様子

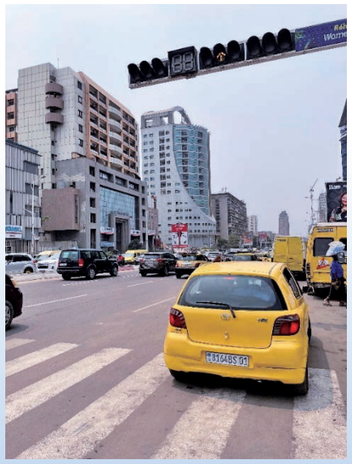

写真8　キンシャサ市内のタクシー・バス

写真9　キンシャサでの仕事の様子（電力会社：SNELとの打ち合わせ）

写真10　キンシャサの新しいモール

現地で人々と個人的な関係を築くことは私にとって自然なことであり、滞在時に仲良くなった人とはキンシャサを離れた後も長く続く友人関係を築いています。

ビジネスでの経験に関しては、時折協力的でない現地のパートナーに出会うことがあり、これが会議やプロジェクトの進行における障害となることもあります。先にも言った、柔軟性を重んじる国民性ゆえ、会議は時間通りに始まることが少なく、30分～1時間程度の遅れは日常茶飯事です。私はこのような日常に慣れていますが、初めて訪れる人にとって、特に時間を厳守する日本の方々には、文化的な衝撃でしょう。

コンゴ民は可能性の国。国民性を理解して付き合うことでチャンスが広がる

コンゴ民は、世界で最も貧しい国の一つです。しかし、訪れるべき素晴らしい場所や家族的な親しみを持った人々がいます。また、インフラ開発プロジェクトが数多く存在し、これから先、素晴らしい発展の可能性を秘めた国です。

しかし、このような前向きな側面がある一方で、犯罪、汚職、官庁の手続きの遅延など特有の課題も存在します。これらの課題は国として克服すべき問題ですが、一方、成長し発展していくキンシャサにおいては多くのビジネスチャンスも秘めています。

このビジネスチャンスをつかんでいくには、文化の理解と人々との強い関係を築くことが重要と考えます。先にも述べたように家族的な人間関係、柔軟性を重んじる国民性への理解を深めることが、成功への鍵となるはずです。

写真11　発展しているキンシャサ